

小田原市民ホール開館記念「市民優待企画」事業参加

劇団こゆるぎ座

創立75周年記念(第68回)公演

後藤 翔如 作

相州名物

小田原提灯縁起

◆会場

小田原三の丸ホール 大ホール

◆公演日時

令和3年(2021年)

10月16日(土) 昼の部 13時~
夜の部 18時~

17日(日) 昼の部 13時~

※開場は30分前。途中休憩はありません

◆チケット(前売り・当日券共通)

1,500円

※日時指定制・全席自由席

◆チケット販売・取扱所

・ハルネ小田原街かど案内所

・平井書店

この公演に関するお問合せ 劇団こゆるぎ座 事務局 ☎090-2520-5716(奥津)

郷土に息づいた七十五年

終戦直後の荒廃した小田原に明るい文化の灯を！

この理想を掲げた早稲田大学在学中の学生達を中心とした活動をあげた劇団「ゆるぎ座」。地域に根ざした演劇文化の開花には、それぞれの時代を受け継いだ熱き仲間達の情熱と真摯な郷土愛を培い、おいては旺盛な文化貢献の魂を生み出し伝え、実際に七十五年にも及ぶ活動記録の歴史を識る喜びとなりました。

積み上げた活動実績を顧みれば、永きに亘る市当局のご理解とご支援に恵まれ、また、手を添え背を押して下さったあまたの方々、實に無限大と評しても過言にはなりません。そしてこんにち。令和三年九月。新設なつた華麗な小田原三の丸ホール。また新たな小田原の未来像を呼び覚ます含みが漂う文化の殿堂。そのめでたき開館の祝典の意に、早々と出演依頼のお声掛けを賜つた光榮に浴することとなりました。劇団創立七十五周年記念公演には「小田原ちょうちん」を選びました。

「灯をともす」これを合言葉に、明るく、楽しく、うるわしく、三の丸ホール落成記念祝事に花を添え、新しい小田原の文化資質の開運の一つにつながればと念じました。

代表 関口秀夫

経緯・いきさつ・

後藤翔如

小田原を舞台にした作品をいろいろ描いてきましたが、ご要望しきりなのが「小田原ちょうちん」であります。江戸期、小田原を全国に知らしめたのは、北条五代でも二宮金次郎でもなく、この道中提灯で、その調法さから携帯電話のようにぱッと広まりました。

「なぜこれを芝居にしないのかい、芸がないねえ。そういう先が長いわけじゃないんだから」、「よござんす、描きやいいんでしょ、描きや」。酒の席での勢いに乗せられて、相州名物を相手にすることになった次第で、はい。

この提灯の作者や年代は不明で、諸説あるようですが、歌舞伎の白井権八の乗る駕籠にぶら下がっているところを見ると、江戸初期であります。なんせ相手は提灯、小田原府内の提灯屋を舞台に、その効能を軸に、幕を揚げて行くしかありません。

その効能とは、①携帯に便利なこと。②雨や霧に強いこと。③魔よけの御利益があること。

誰がどんな工夫をしたものやら、トンと見当がつきません。

「いいかい、いくら提灯がテーマでも暗い芝居はいけない。

いよ、高いお金を払って観に行くんだからね」「言いたい放題ですな。そりや提灯ですから、点けりや明るいに決まってまさア」「そうかい、じや観せて貰おうじやないかい」「ええ」

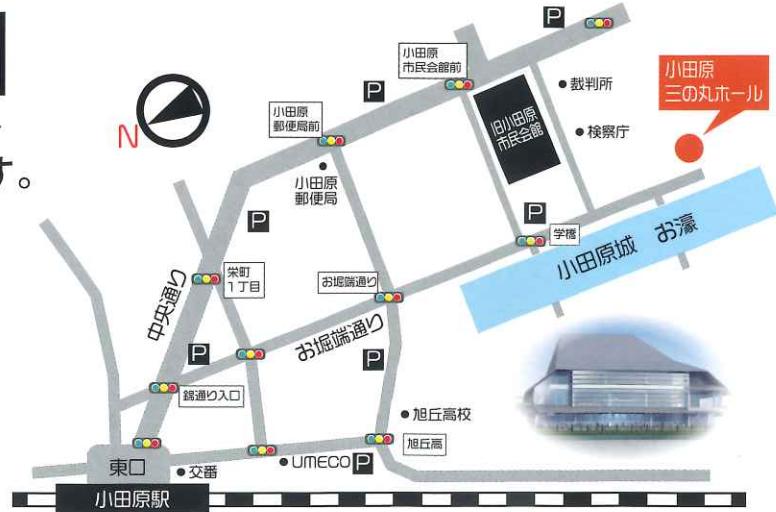
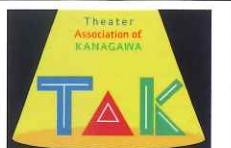
小田原駅の回廊へ吊り下がった大きな小田原提灯を横目ににするたびに、なにやら気圧された大きな心地、提灯踊りで逃げ出したい。

それにしても火と紙、最も避けねばならぬ組み合わせによる照明効果、古人の智恵には恐れ入谷の鬼子母神です、はい。

登場人物

提灯屋 丸甚	夫秀子 宙
主人 女房 甚い 甚さ	関奥津野 阿沙子
息子 女房 甚助 よ	関井上 阿沙子
女房 息子 甚さ	矢子一
桔梗屋 隠居 藤兵衛	崎井藤 隆敏純
女中 番頭 又治郎	山新加 鎌田健太郎
下駄職人 弥助	楠松橋 正ゆう
女房 なつ	野村信太郎
指物職人 次郎吉	野田満
女房 あき	勝保建吾
鎌職人 辰吉	羽尻真由美
馬子 権助	瀬戸美咲
豆腐屋 太源	酒口松男
畠屋 たき	小田原藩大納戸方用人 村山源左衛門
紙問屋 江嶋	後見仁
息子 左太郎	阿久津佑希
漆職人 佐兵衛	陌間要一健
黒衣の狐	関野汰太唯
職人	関野文碧
子どもたち	関野北唯

令和3年度神奈川県演劇フェスティバル参加
神奈川県文化芸術活動団体事業補助金対象事業
主催：神奈川県演劇連盟
後援：公益財団法人神奈川芸術文化財団



制 作	協 力	合 唱	舞 台 監 督	記 録	着 付	美 術 ・ 題 字	音 樂	効 果 音	音 響	小 道 具	か つ ら	衣 裳	照 明	演 出
関口 秀夫												中村 由加	舞 台 裝 置	演
ランケイ社 (浜町)	森下 純子	小田原少年少女合唱隊	門松 奥津	松下 大嶋	陌間 穂谷野雅美	要一 保乃しんり	穂谷野朝	森田 渡邊	園子 (株)山田かつら	羽尻真由美	東京衣裳(株)	三の丸ホール照明部	門松 正夫	楠田 正宏
山崎提灯店 (飯田岡)	森下 純子		門松 正夫	守	美恵 弘子	要一 穂谷野雅美	三の丸ホール音響部	森田 広恵						

おことわり

- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、やむを得ず公演を中止することがあります
- 客席は1階のみとし、各回とも約350席(50%)までとさせていただく予定です

ご来場のお客様へのお願い

安心して観劇していただけますよう、関係者一同、感染予防対策に務めてまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

- 発熱(37.5℃以上)や咳など、風邪の症状がある方、PCR検査で陽性と確認された方と濃厚接触があった方は、観劇をお控えください。
- 館内では常時マスクを着用し、会話はできるだけ控えてください。
- 会場の入り口で検温と手指消毒をさせていただきます。37.5℃以上の熱のあるお客様は、入場をお断りいたします。なにとぞご了承ください。
- 入場券の半券にお名前と連絡先電話番号を記入し、半券をご自身で切り取り回収箱へお入れください。万一、感染された方が観劇された場合は、保健所に報告し、個人情報を保健所と共有させていただきます。なお、個人情報は1か月間保管後、責任をもってシュレッダー処理し廃棄いたします。
- 例年ロビーに設置していましたプレゼントの受付は、実施いたしません。出演者などへのプレゼントや差し入れ、面会などは辞退させていただきます。
- ロビーおよび客席での飲食は、禁止させていただきます。
- 終演後は、混雑を避けるため、順番に退場していただきます。指示があるまで着席のままお待ちください。